

2023年3月期2Q決算に関するQ&A（要旨）

この質疑応答集は決算説明会で、投資家の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1. 映像制作サービス事業について、米動画配信サービス大手ではインフレ影響や巣籠需要の剥落から会員数のモメンタムの鈍化の動きがみられます。今後の業界の見通しについて、定量的なデータもあれば合わせて御教示ください。

A 定量的なデータをこの場で開示することは控えますが、当社として認識している業界の見通しは、先ほどの説明会でもお伝えしましたが、改めてお答えします。

1. 米国においてハリウッドメジャースタジオを中心に新しい動画配信プラットフォームが増えており、会員獲得競争が激しくなっています。
2. これまでは英語圏の作品を全世界に配信することが主流でしたが、最近は韓国など非英語圏での作品を配信する動きが見られます。

これら2つの動きによって、作品数や配信する言語数が大きく増えており、当社のE2Eサービスにとっては追い風となっています。一方で会員数の増加率の鈍化を防ぐために、広告付きのモデルが登場するなど、動画配信プラットフォームの収入モデルが変わりつつあるのも事実でして、その動きがオリジナル作品制作への投資にどう影響が現れるか、今後注視する必要があると認識しています。

Q2. 足元の受注状況と今後の見通しについて、セグメント毎にご教示ください。

A 足元の具体的な受注状況をこの場でお答えすることは控えますが、下期にかけてのセグメント別の見通しについてお答えします。

1. 映像コンテンツ事業：映画・ドラマ・アニメ制作は一部作品の期ズレはあるものの、全体として受注は順調です。特に3QはNetflix向けの「今際の国のアリス シーズン2」納品を控えています。一方でCM制作については、資源高と円安を背景とした原材料コストの増加などによる製造業の業績悪化が想定される報道も多く、当社としては4QでのCM制作の受注について保守的に見込んでいます。

2. 映像制作サービス事業：動画配信のE2Eサービス(海外)の増収傾向は変わりませんが、第4四半期から増収率が鈍化すると見込んでいます。上期は、米国で新しくスタートした動画配信プラットフォーム向けの過去作品のローカライズサービス受注が好調だったことなどから、大きく売上を伸ばすことができました。（前年の2倍程度）一方で第4四半期以降はこれら過去作品の受注がひと段落して、新作のオリジナル作品に対する受注が中心になると想定しているからです。国内では、TV番組やTVCMのポスプロは順調ですが、コロナ禍からの回復で受注が大きく伸びた昨年には届かない見込みです。

3. 映像システム事業：ハイスピードカメラにおいて、下期も半導体の安定調達ができるかどうか、まだ不透明な状況ではありますが、説明会の中でお伝えした、光学計測や映像画像処理LSIが堅調に推移すると見込んでいます。

2023年3月期2Q決算に関するQ&A（要旨）

この質疑応答集は決算説明会で、投資家の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q3. 市場全体として、メタバースはビジネスの収益化がまだまだと感じますが、御社の今後のビジョンについて教えていただけますでしょうか？

A 当社では、ライブエンタテインメント事業の一つとして、映像体験型テーマパークに取り組んでおり、メタバースは、その中の1つであります。

現在、東京ガールズコレクションや、ぴあ、東京 e スポーツゲート、森ビルなど、様々なパートナーとビジネスモデル構築に向けて新しい取り組みを進めており、いくつか実績もできました。当社だけでビジネスを展開するのではなく、有力なパートナーと協業して、メタバースを含めたライブエンタテインメント事業のビジネスモデル構築を推進していきます。

以上